

オルガノン要約 § 60～66

§ 60 アンティパシーでは、その効果がすぐに切れるため緩和剤を次第に強くしていかなければならない。結果、より重い他の病気が発生する。もしくは治癒不可能な状態や生命に危険な状態が生じ、決して治癒しない。

（注）瀉血や飢餓療法などで患者の生命を削ることによって、苦痛を少しずつ徐々に和らげ、最終的に患者の生命を抹殺するというプルゼ氏の治療法は、全ての病気に対して適用された安易な方法で、多くの地域でもてはやされた。

§ 61 このようなアンティパシー的な療法の悲惨な結果を反省すれば、これらとまったく反対の療法（類似と微量：ホメオパシー）こそが真なる持続的な医術であることがわかったはずだ。しかし誰も気づくことはなかった。

§ 62 ホメオパシー的に健康を達成する事実は、身近な経験から知ることができ、非常に重要なのだが、これまで誰の目にも留まらなかった。

§ 63 一次作用：ポテンタイズされたレメディーが最初を起こす健康状態の変化。生命エネルギーよりもレメディーのエネルギーの方がやや強い。

二次作用：レメディーのエネルギーとは反対の方向に自分の力を向けようとする生命エネルギーの努力。生命維持のために働く自動的な活動。

§ 64 生命エネルギーはまるで無理やりに外部からの人為的なエネルギー（レメディー）を受け入れ、自分の状態を変化させる。次に自分をいわば再び奮起させる。それには二通りの状態がある。

A) 一次作用と反対の状態を生み出す場合。（逆作用・二次作用）

B) 一次作用と反対の状態を生み出さない場合。レメディーによって生まれた変化を消し去ることによって自分の優位性を発揮しようとしている。そして本来やるべきことに生命エネルギーは再びとりかかる。（二次作用・治癒作用）

§ 65 Aについて：一次作用と二次作用の例。

薬を大量に投与すると、生命エネルギーは一次作用と反対の状態（二次作用）を常に必ず生み出す。

§ 66 普通、レメディー投与後の二次作用を健康な身体に認めることはできない。二次作用は正常な状態に回復するのに必要なだけの逆作用しか生じないから。